

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (四国)	◎	美容室（経営者）	・12月、1月は忙しくなる時期であり、景気回復が期待される。
	○	商店街（代表者）	・レジャー産業にとっては良い営業シーズンの到来であり、忘年会・新年会等の年末年始の宴会も企業・団体等の大多数で開催することが可能な状況である。以前よりも少人数での開催となる可能性が高いことが不安材料であるが、顧客が個々に気を付けながら楽しむことができれば、景気は良い傾向になるとみられる。
	○	商店街（常務理事）	・中国の景気減速やグローバルな地政学的リスクが国内景気に及ぼす影響は計り切れないが、来年は為替が円高傾向へ変化し、物価高も落ち着き、国内の経済、消費は上向くことが期待される。
	○	スーパー（店長）	・現状の傾向がしばらく継続するとみられる。
	○	コンビニ（店長）	・自粛傾向は過去のものになり、平常の生活に戻り、徐々に良くなっていくとみられる。
	○	衣料品専門店（経営者）	・今月は気温の変化とともに業況が良くなってきたため、今後については暖冬といわれているが商品はそこそこ売れていくと期待される。
	○	家電量販店（店員）	・新生活の準備で一時的に販売量が増えるとみられる。
	○	旅行代理店（部長）	・経済対策の効果による景気回復が期待される。
	○	通信会社（支店長）	・全国と比較し、来客数は伸び悩んでいる状況にあるものの、年末年始の商戦をきっかけに景気が回復すると想定される。
	○	競輪競馬（マネージャー）	・物価上昇が緩やかになり、先々の不安も解消しつつあり、遊興に向けられる余裕資金が少しずつ増えるとみられる。
	□	一般小売店〔文具店〕（経営者）	・今後2～3か月後に向けて、我が社に關係している商品需要は良くなる要因がみられず、年度末に向けて、客からの見積依頼は少ない。
	□	一般小売店〔酒〕（経営者）	・物価上昇により生活に必要な物から優先的に購入するため、今後も消費者の財布のひもは固くなるだろう。
	□	百貨店（販売促進）	・物価の高止まりと、多方面での先行きの不透明感により、急激な消費行動の好転にはならないとみられる。
	□	スーパー（企画担当）	・物価の上昇により商品単価は上がる一方、販売数は前年割れとなっている。結果として企業の売上は増加しているが、増税などにより実質賃金が上がっていないなかで、景気は変わらないとみられる。
	□	スーパー（人事）	・12月に向けての景気動向がどうなるか読めない部分が大きく、先行きが不透明である。
	□	コンビニ（総務）	・今後、人流が活発になれば売上が伸長する可能性はあるが、ドラッグに景気が良くなるとはみられない。
	□	コンビニ（商品担当）	・更なる原材料の価格高騰、販管費・人件費・物流費の高騰が予想される。
	□	衣料品専門店（経営者）	・衣料品店は通常、年末にかけてアウターなどの重衣料品が売れて景気が良くなるが、今年は売行きが良くない。
	□	衣料品専門店（営業責任者）	・暖冬になることが予想されており、高単価のコートなど重衣料の販売動向の悪化が懸念され、非常に厳しいシーズンになるとみられる。
	□	家電量販店（副店長）	・今年度は暖冬の予測になっているため、季節商材を中心とした売上は期待できない。
□	乗用車販売業（営業担当）	・長納期が解消されないため販売のめどが立たない。	
□	乗用車販売店（従業員）	・長納期の車種が多く、販売できる車が少ない。	
□	乗用車販売店（従業員）	・今期の販売台数は確保できそうであるが、受注台数の減少継続が懸念される。	
□	観光型旅館（経営者）	・物価高により国内の集客は一服すると考えられるが、インバウンド需要が地方に波及するとみられ、現状は維持されると予想される。	
□	通信会社（営業担当）	・来客数は前年同月比でやや減少気味であり、物価高により通信端末の購入需要も減少するとみられる。	
□	観光遊園地（主幹）	・現時点で、景気状況の大きな変化が予測できない。	

	□	設計事務所（所長）	・人手不足の影響により、中途採用の希望年収が上がっており、それに追いつけるだけの企業業績が見込まれるかが不透明である。
	▲	商店街（代表者）	・かなりの人手不足が予測され、賃金アップ等、経営にかなり負担が掛かってくるようにみられる。消費者マインドもかなり下がり、これからは少し足踏み状態が続くと予想される。
	▲	商店街（代表者）	・生活のゆとりにすぐにつながると考えての手当の分配や賃上げは、場当たりの、小手先の政策と捉えられており、もはや通用しない。真剣に消費税の値下げまで踏み込んだ国民生活の改革が不可欠になっている。
	▲	一般小売店〔生花〕（経営者）	・年末年始に向けての予約が入りにくい。前年より購入に慎重になっている様子で、問合せのみで予約にまで至らない。
	▲	スーパー（店長）	・1品単価が低下傾向にあるとみられる。
	▲	スーパー（統括担当）	・物価高の影響は大きいとみられる。
	▲	スーパー（財務担当）	・更なる物価上昇に、賃金上昇が追いつかないとみられる。
	▲	その他専門店〔酒〕（経営者）	・これからは年末に向けてお歳暮商品が売れるが、3か月先はその反動で少し悪くなるとみられる。
	▲	その他小売〔ショッピングセンター〕（総務部担当部長）	・現在の売上は地域クーポンの寄与による部分が大きく、当該事業終了後は一定の売上縮小が避けられないと想定している。
	▲	一般レストラン（経営者）	・来客数、客単価が伸び悩んでおり、物価高騰等のあおりで外食に掛ける出費を抑えている。
	▲	都市型ホテル（経営者）	・国際情勢の先行きの不透明感が強まり、好調なインバウンドにも影響を与える可能性が高い。
	▲	タクシー運転手	・客との会話では物価高やガソリン代・電気代の上昇などのいろいろな要因で、小遣いが減ったというサラリーマンの声が多い。また、個人事業主もインボイス制度の開始により、自由に使える金之余りなく、様子見の状態であり、タクシーの稼働率も現状のままで増える要因がない。
	▲	通信会社（社員）	・若年層がテレビ離れしている。
	▲	美容室（経営者）	・少しずつ来客数と売上が減少している。
	×	コンビニ（店長）	・地域柄、ボーナスを望める世帯が少ないため、更に消費が悪くなるとみられる。
企業 動向 関連 (四国)	◎	食料品製造業（商品統括）	・来年に給与アップの予定があり、他業種への波及がより進むと景気の底上げが期待される。
	○	鉄鋼業（総務部長）	・主要材料のスクラップ価格、製造経費率の高い電気料金共に高値ではあるが、ピークは過ぎたとみられる。
	○	電気機械器具製造業（経営者）	・主に竹を飼料にするバイオマス事業に取り組んでいるが、一般飼料の価格高騰の影響や、ゼロカーボンの世間からの認知により、飼料が売れ出している。
	○	広告代理店（経営者）	・多くの客先では販売促進のための広告計画は依然として慎重であるが、旅行・ホテル等の観光関連広告や人手不足対策の採用ソリューション関連の仕事は増えており、全体としてはやや良くなると予想される。
	□	農林水産業（職員）	・冬野菜の作況は特に天候に左右されるが、貯蔵出荷する玉ねぎ、さつまいも、じゃがいも等は既に収穫しており、施設栽培する果菜類、葉物、茎野菜などが作況・収穫時期に天候による変動が大きい。消費需要に変化はみられないことから、今後の景気は天候次第であると予想される。
	□	食料品製造業（経営者）	・値上げにより消費者が廉価品を選択することが予想される。
	□	繊維工業（経営者）	・現在、全般的には受注は堅調であるが、繊維業界は原材料、加工資材等、ほとんどが輸入に頼っており、仕入れ・加工業者からの値上げがまだ続いている。この状態が続けば将来的には消費者が離れていくことが懸念される。
	□	パルプ・紙・紙加工品製造業（経理）	・キッチンペーパーの需要は高く売行きが良い。ウェットクリーナーは年末の掃除に向けて需要が高まるため売上が増えるとみられるが、その後は年末で納品した分の在庫があるため売上が減少すると予想される。
	□	一般機械器具製造業（経理担当）	・日本、海外共に景気傾向は大きく変わらないと予想される。
	□	電気機械器具製造業（経理）	・一時的な減税の話も余り効果が得られそうになく、原動費及び物価は依然として高止まり、円安基調も継続していることから今後の景気回復の兆しがみえない。
		□	建設業（経営者）

	□	輸送業（経営者）	・今後2～3か月では大きくは変わらないとみられる。
	□	通信業（企画・売上管理）	・特に悪い話も聞かないため、景気は変わらないと予想される。
	□	通信業（総務担当）	・ボランティア活動等の社外イベントの参加者数はおおむね横ばいになっており、新型コロナウイルス感染症流行以前の状態にほぼ戻ったと感じるが、これから更に参加者が増加して、人の移動が活発になるような要素が現状では見当たらない。
	□	金融業（副支店長）	・原材料価格の上昇等の影響はあるものの、価格転嫁や客足の回復に加え、受注量も変動がないことから現状程度の景気で推移するとみられる。
	▲	木材木製品製造業（営業部長）	・11月からの着工計画が予定より悪くなっており、1月からの受注量もかなり下回る予定で計画を立てている。今後もこの傾向は継続するとみられる。
	▲	化学工業（所長）	・原油・ナフサの価格は上昇傾向で、円安も重なり原料価格が高騰する可能性が高いとみられる。
	▲	建設業（経営者）	・金利・物価の上昇の影響が考えられる。
	▲	不動産業（経営者）	・不動産仲介業では、土地価格・建築資材・人件費の高騰等で買い控えが発生している。
	▲	税理士事務所	・まだ状況は安定しておらず、これからも不測の事態が発生するのではないかと予想される。
	×	—	—
雇用 関連 (四国)	◎	—	—
	○	—	—
	□	人材派遣会社（営業担当）	・求人数は一定数あるものの、専門性が高いため就労につながりにくい。
	□	求人情報誌（営業）	・人材不足は継続の見込みで、現状では改善要素が見当たらないため横ばいとみられる。
	□	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・景気は低調のまま変わらないとみられる。
	□	民間職業紹介機関（所長）	・ここ数か月では、求人の動きに大きな変化があるとはみられない。
	□	学校〔大学〕（就職担当）	・大学卒業生に対する人手不足感は変わらないとみられる。
	▲	求人情報誌製作会社（経営者）	・年末年始のアルバイト募集も落ち着き、全体的に募集が増えてくる3月までは求人数の増加は少ないと予想される。
	▲	職業安定所（求人開発）	・前年同月比で産業別新規求人数が増加したのは5つの産業であるのに対し、減少した産業は12の産業であり、景気がやや冷え込んでいる。
	×	—	—